

HPリニューアルのお知らせ

気胸センター開設について

当院では気胸の患者さまのお受け入れが年々増加傾向にあり、それに伴い手術や気管支鏡治療などの専門治療のニーズも増えてきています。そこで、呼吸器外科医や呼吸器内科医、救急医および集中治療医それぞれが専門知識を持ち合った集学的治療をご提供できるよう、このたび気胸センターを開設致しました。24時間体制で、様々な容態の患者さまに対応致します。



【気胸センター】



練馬が丘病院
気胸センター
開設しました

若年者から高齢の方まで、様々な患者様に対応いたします。

呼吸器外科医を中心に、呼吸器内科医や救急医、集中治療医と連携して、24時間何時でも患者様の受け入れが可能です。

気胸か否かの判断に迷う場合でも、お気軽にご相談ください。

詳細・お問い合わせ
●練馬が丘病院 入院医室
●受付時間：月曜～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00
(日曜・祝祭日・年末年始12/29～1/3は休み)
TEL: 03-3979-3611(代表) 03-3979-3709 (入院医室直線) FAX: 03-3979-3844 (入院医室直線)

リハビリワンポイントアドバイス

『暑さでごはんの量が減った…筋肉まで減っていませんか？』



「最近暑くてあまり食べられないのよ…」そんな声をよく聞く季節です。食事量が減ると、体重だけでなく筋肉も減ってしまいます。筋肉が減ると立ち上がりや歩く力が弱くなり、転びやすくなってしまいます。

低栄養の評価には GLIM 基準という方法があり、体重減少や BMI に加えて筋肉量の減少も診断のポイントです。当院では身体組成計で筋肉量を測ることができます。暑い夏こそ、栄養と筋肉を守りましょう。



練馬光が丘病院は「公益社団法人地域医療振興協会」の運営施設です。地域医療振興協会は、地域医療を取り巻くさまざまな問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に1987年5月に設立され、2009年12月1日より公益社団法人として新たにスタートしました。地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上など住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

発行元：練馬が丘病院

〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-5-1
TEL: 03-3979-3611(代)
<https://hikarigaoka-jadecom.jp/>

きらきらレター

Kirakira-Letter

令和7年9月

第95号

公益社団法人地域医療振興協会 練馬が丘病院 広報紙



もくじ

血液難病センターの紹介…………… 2・3 HPリニューアルのお知らせ…………… 4

リハビリワンポイントアドバイス…………… 4

血液難病疾患センター紹介

血液難病疾患センター長 後藤明彦

2025年4月1日より設置された血液難病疾患センターのセンター長を務めています、後藤明彦です。当センターの紹介をさせていただきます。

血液難病の現状と課題

特定医療費助成制度の対象となる、いわゆる指定難病は数多く存在し（詳細は難病情報センター <https://www.nanbyou.or.jp> をご参照ください）、その多くは希少疾患です。中でも血液に関連する難病とその仲間の病気には、血液専門医でも生涯で数例しか経験しない、あるいは一例も診たことがないような病気が少なからずあります。諸外国の中には政策として、そうした病気を扱う医療機関をセンター化し患者さまを集約して診療している国もありますが、我が国ではそうした体制は不十分です。そのため、日本各地の血液難病の患者さまたちは、各地域の血液専門医の先生方に散発的に対応してもらっているのが現状です。

患者さまの数が多い病気であれば、医師側も患者さまの多様な病態や個人個人の年齢・社会状況などを把握し、個々の患者さまに適した治療を提案することが可能ですが、専門医側が多くの患者さまを経験していないと、患者さまの長期予後に着目した治療を選択するのに困難を感じたり、難病診療の発展に欠かせない新しい治療薬やその治験への参加など、役に立つ治療へのアクセスのハードルになる可能性が考えられます。

経験の共有とセンター設立への思い

私は前職（東京医科大学病院血液内科主任教授）の経験の中で、日本に1,000人台しかいらっしゃらない発作性夜間血色素尿症（PNH）の「診療の参照ガイド」の作成に長年関わってきました。PNHだけでなく、その他多くの血液難病やその仲間の疾患の治験を経験し、また、そういった新しい薬剤の安全使用に関わる適正使用の検討委員会にも携わってきました。本年3月で前職を定年退職しましたが、こうした経験を社会に還元したいと考えていたところ、当院の管理者である永井秀雄先生や特命副院長で血液内科の竹迫直樹先生のご理解を得て、血液難病疾患センターを設置させていただくことになりました。

センターの使命と診療体制

ここでは指定難病だけでなく、種々の希少血液疾患に精通した血液専門医を配置し、そうした患者さまを可能な限り集約して診療し、治験参加のチャンスも含めて、新規かつ有用性の高い医療を患者さまに長期（場合によって患者さまの生涯）にわたって提供できるようにしています。また、日本各地で血液難病を診療していらっしゃる先生方・患者さま方からのセカンドオピニオンの受け入れも行っており、専門的な見解を提供すると同時に、紹介元医療機関との連携のもとで診療を継続していく体制も整え、患者さまにベストな診療を一緒に考えていきます。

専門医の育成と次世代への継承

さらに当院は日本血液学会認定の専門医研修施設でもありますので、これから血液の専門医を目指す若い先生たちが、このセンターでたくさんの経験を積んで、将来もっと多くの血液難病の患者さまを助けられるよう育てていくことも大切な役割と考え、次世代の血液難病に精通した専門医を育成することも目指していきたいと考えています。

未診断の血液異常への対応

当センターでは、多くの血液難病やその仲間の疾患に対応していますが、未診断の血球異常（貧血、汎血球減少、血小板減少、好酸球増多、多血症など）における鑑別診断も含め、診断が確定していない場合の受診・相談を歓迎します。なるべく早い時期にご紹介いただき、早期の診断・治療に繋がたいと願っています。特に健診などで貧血や多血、血小板や白血球が多い、少ないといったことでの受診、あるいはかかりつけの先生の方で行った血液検査のちょっとした異常から診断に至るケースも少なくないので、どんな患者さまでもお気軽に紹介・受診していただければ幸いです。

入院対応と高度医療施設との連携

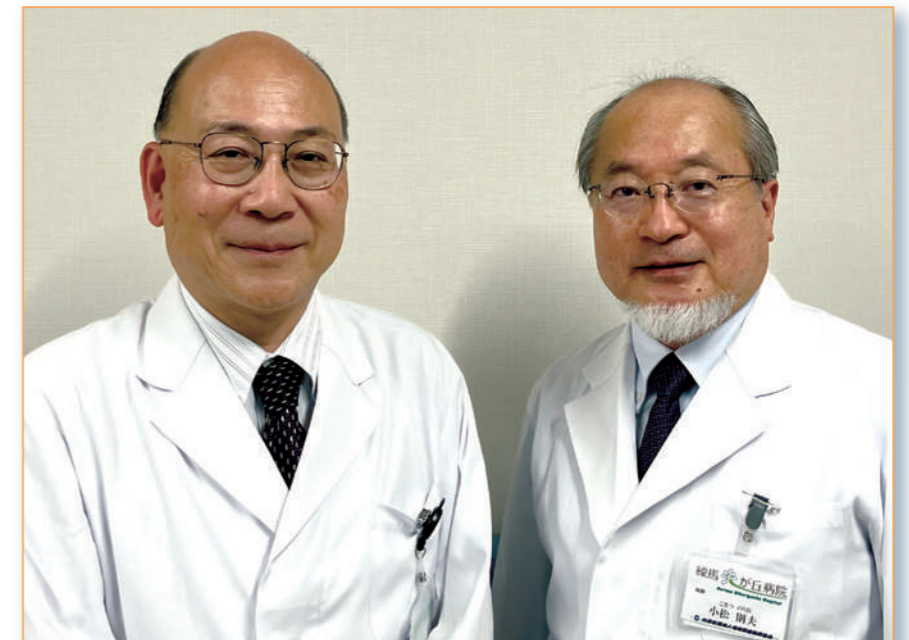
入院治療に関しても、必要に応じて即日入院も可能で、当院で対応していない治療（同種造血幹細胞移植やCAR-T療法など）が必要な場合は大学病院など適切な受け入れ可能な施設をご紹介します。

患者さま・ご家族へのメッセージ

難病にかかってしまった患者さまとご家族がお抱えになっている様々な負担を少しでも減らして、より良い人生を生きるパートナーとなるセンターでありたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



【血液難病疾患センターへのQRコード】



筆者（左）と、当センター顧問で骨髓線維症など骨髓増殖性腫瘍研究の世界的権威の小松則夫先生